

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評 価 (2月25日実 施)	総合評価 (3月 15日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○「自立と社会参加」をめざし、小学部から高等部まで達成感の持てる授業を実践する。	(1)一人ひとりのニーズにあわせた教育を行う。新学習指導要領についての理解をさらに深め、教育課程の編成に取り組む。  (2)「小中高の連続性」を意識して、「考えて、わかり、できる」授業を実践する。	(1)感染症対策を踏まえ、ICTの活用も含めて、年間指導計画を作成し、新学習指導要領に対応した教育内容の充実を図る。  (2)研究「えびなの授業」において、全校縦割りグループ編成により研究を深め、「小中高の連続性」を意識して、授業改善を進める。	(1)新学習指導要領に対応した教育課程を編成し、感染症対策を踏まえて、教育内容の充実を図ることができたか。  (2)各教科グループでの取組を全校で共有して、授業改善につなげることができたか。	(1)年間指導計画を新学習指導要領に対応した項目の書式に変えて、教育内容の充実を図る試行を始めた学部がある。ICTの活用については、コミュニケーションを支援するアプリを活用する事でホームルーム等の活動に主体的に参加できたり、教室での授業に参加しづらい児童生徒がオンラインで自宅や別室から授業に参加することができる等の成果があった。 (2)各教科グループごとに授業研究を重ね、授業改善に取り組んだ。その過程で、「教科における授業づくりの流れ図」を作成し、1教科で試行的に活用して課題を整理することができた。	(1)今後、各学部での取組から抽出された課題を学校全体で整理し、年間指導計画の書式等の改善を図り、次年度の計画に反映させていく。ICTの活用については成果もあり、感染症対策としても充実が必要である。 (2)「教科における授業づくりの流れ図」を活用する事で、授業づくりのポイントを明確にできたが、授業検討のプロセスの共有や検討内容のスリム化に課題が残る。次年度他教科でも活用して成果と課題を明らかにする必要がある。	(保護者アンケート④)肯定的:92.9% コロナ禍で制限がある中、丁寧な指導に感謝している。 ・小中高の連続性を意識した取組についての具体的な方策が必要。 ・感染症対策に細心の注意を払いながら、大変な努力で、工夫した教育活動が行われていた。	(1)年間指導計画を新学習指導要領に対応した項目の書式にあらため、教育内容の充実を図ることができた学部があった。ICTの活用は成果があった。全校での取組としていくことが課題である。 (2)各学部で、「小中学校の連続性」を意識して取り組んだが、研究とも関連させて、授業改善に生かすことができる具体的な方策を検討することが課題である。	(1)今年度の学部での取組を検証し、全校での取組とできるよう検討する。ICTの活用に関しては、成果を校内で共有して、より充実させていく。  (2)研究「えびなの授業」を行い、授業改善に取り組む。「教科における授業づくりの流れ図」の活用については、「小中高」の連続性を意識する視点も含め、検討を進める。
2 児童・ 生徒指導・ 支援	○一人ひとりの教育的ニーズについて、アセスメント等を充実させ、実態把握を行いそれを「個別教育計画」に反映させ、授業を実践する。	(1)個別教育計画を活用して、様々な体験を通して、達成感や自己肯定感を育むよう教育活動を実践する	(1)-1 アセスメントや専門職と連携したケーススタディの成果を「個別教育計画」の「実態の把握」や「指導内容」に記入する等、作成に反映させる。  (1)-2 関係者が専門性を発揮して連携し、感染症対策に対応した上で、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導支援を行う。	(1)-1 発達段階に応じたアセスメントや、専門職と連携したケーススタディを「個別教育計画」作成に生かし、教育活動を行うことができたか。 (1)-2 チームで協働し、感染症対策に対応した上で、多面的な視点から児童生徒の達成感や自己肯定感を育む教育活動を実践できたか。	(1)-1 必要に応じて、担任や保護者が教育相談コーディネーターや専門職と連携し、アセスメントを実施するなどして、個別教育計画を作成し教育活動に生かすことができた。 (1)-2 教育相談コーディネーターや専門職がケーススタディに参加したり、記録を必要な教員で回覧するなどして、情報共有につとめ、より良い支援の在り方について、多面的な視点で意見を交わし、支援の充実を図ることができた。	(1)-1 担任等が教育相談コーディネーターや専門職と連携して指導支援の充実を図る体制が整ってきたが、児童生徒の主体的な学びにつながるよう、より具体的な取組が必要である。 (1)-2 感染症対策が続く中、児童生徒の達成感や自己肯定感を育む教育活動のための一層の工夫が必要である。	(保護者アンケート⑤⑥⑨)肯定的:91.7% ・個別教育計画の作成については、一定の成果があったが、教育活動に生かされるような、目標設定や評価の観点が必要である。	(1)-1 計画を活用して、授業実践を充実させるための取組について具体案を共通理解することが課題である。 (1)-2 チームで協力して、指導・支援の充実を図った。感染症対策が続く中、引き続き、児童・生徒が様々な体験を通して、達成感や自己肯定感を育むような工夫した教育実践が必要である。	(1)-1 引き続き、必要に応じて、専門職によるアセスメント等を個別教育計画作成にいかすことができるようなくみの充実を図る。さらに、その計画を授業づくりにいかすためには、どのような方策が必要か検討する。 (1)-2 工夫した授業実践が、児童生徒の、「達成感」や「自己肯定感」に生かされるような、目標設定や評価の観点について検討が必要である。
3 進路指導・ 支援	○地域の関係機関との連携を築き、児童・生徒が地域で豊かに暮らし、働くことにつながる教育活動を展開する。	(1)進路先の情報の収集・整理、企業での体験等に取り組み、「小中高連続性のあるキャリア教育」の視点を持って、「職業」「進路」に係る授業実践を行う。 (2)高等部の作業学習について、作業種や内容を検討	(1)研究「えびなの授業」での「小中高の連続性」を意識した取組を生かして、小学部から高等部まで、連続性のあるキャリア教育の推進に取り組む。 (2)作業学習において、「生徒の個々のニーズに合った活動を提供してい	(1)小学部から高等部まで連続性のあるキャリア教育の視点を持って、教育活動を計画・実施できたか。 (2)「自立と社会参加」をめざし、作業種や作業内容を検証し校内で共有することで、作業学習を充実させることができた	(1)各学部では児童生徒の発達段階に応じた「キャリア教育」の視点を持って指導し成果をあげた。 (2)高等部では、作業内容や作業種の検討を行い、作業内容を細分化したり、新しい作業種を取り入れ、生徒の教育的ニーズに応じた指導を行うことができた。	(1)日々の教育活動の積み重ねが、将来の「自立と社会参加」につながることを学校全体で意識し、引き続き各学部がキャリア教育の視点を持って指導を行うことが必要である。 (2)高等部作業学習においては、今後も生徒の教育的ニーズに応じた指導を行うため、作業内容等の検討も含め、継続して教	(保護者アンケート⑦⑧)肯定的:86.9% 卒業後のことを移行支援担当と相談できるのがありがたい。 定期的な情報が欲しい。 ・アフターフォローについては、丁寧な	(1)各学部では、「キャリア教育」の視点を持って指導を行い、成果を上げた。「小中高の連続性」を意識した授業実践の充実には、より意識を高めていくことが課題である。 (2)高等部の作業学習における作業種や内容の改善では成	(1)連続性のある「キャリア教育」の視点を持った授業実践について、校内でさらに意識を高め、共通理解のもと推進するための方策を検討する。 (2)高等部の作業学習は、引き続き改善した事項について、検証しつつ、継続して充実を図ることが必要である。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月25日実施)	総合評価(3月15日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			改善し、「自立と社会参加」する上で必要な力を育成する。  (3)関係機関と連携したアフターフォローを行い、今後の長期的な視点も含めた計画を作成する。	く」ことをめざし、作業種や活動内容を検討し、授業改善に生かす。 (3)長期的な視点を持って、関係機関と連携して、計画的なアフターフォローを実施し、卒業生の地域定着支援の充実を図る。	か。  (3)関係機関と連携して、アフターフォローを行い、卒業生の地域定着支援のしくみを作ることができたか。	(3)卒業後の定着支援では、就労継続困難なケースが複数あったが、学校が中心となり、本人保護者企業援助センターとの連絡調整や情報共有を行うことで、支援をすることができた。	育内容の充実を図ることが必要である。 (3)卒業生が地域で安心して生活、活動できるよう、関係機関と連携して、引き続き定着支援の充実を図る取組が必要である。	個別対応があったが、その成果を、今後の関係機関と連携した定着支援につなげることが重要である。	果があった。 (3)アフターフォローでは、個別の相談等に応じて適切な支援ができた。関係機関と連携して、引き続き定着支援の充実を図るしくみを構築することが課題である。	(3)アフターフォローでは、個別の相談を積み重ねながら、引き続き定着支援の充実を図るしくみを構築するため、関係機関と連携を図る。
4	地域等との協働	○地域の支援教育のランドマークとしての役割を果たしつつ、インクルーシブ教育を推進する。	(1)県指定の研究を活用するなどして、地域との関係機関と連携し、インクルーシブ教育の推進を図る。  (2)学校運営協議会の活動を通して、学校と地域との連携・協働した教育活動ができるよう取り組む。	(1)学校全体で「インクルーシブ教育の推進」について理解を深め、地域関係機関等と課題を共有しながら、具体的な取組を進める。 (2)-1 中央農業高校との活動の成果や課題を整理し、より充実させることができるよう検討する。 (2)-2 新しい部会「えびっこクラブ部会」を活用し交流の目的等を確認しつつ、取組を充実させる。	(1)校内外の研修会、地域関係機関との情報交換等を通して、「インクルーシブ教育の推進」に向け、具体的に取り組むことができたか。  (2)-1 中央農業高校との活動の課題を共有して整理し、改善することができたか。 (2)-2 「えびっこクラブ部会」で、学校間交流等について協議し、具体的に取り組む事ができたか。	(1)相談担当だけではなく学部の教員も、地域の市の巡回相談や研修会に講師として参加するなどして、学校全体でセンター的機能の充実を図ることができた。県指定の研究では、人的交流を行い、地域小学校の支援体制の充実を図ることができた。校内でもインクルーシブ教育の実践推進に係る研修会を計画したが、感染症対策でまだ実施できていない。 (2)中央農業とは定期的に打合せをしながら、オンラインも活用して「福祉と農業」の学習などで交流できた。 (3)地域小学校とは打合せができたが、感染症対策のため、具体的には取組が進まなかった。	(1)県の指定研究は、R4年度に2年目となる。本校職員の共通理解等、意識の醸成につとめ、地域でのインクルーシブ教育実践推進を図るためより具体的な取組を進める必要がある。 (2)-1 本校と中央農業高校の交流及び共同学習の捉え方を再確認して、お互いの児童生徒にとってより深い学びとなるように検討を続けたい。 (3)感染症対策の中でもできる取組について、具体的にしていける必要がある。※「どうすればできるか」を考え続け実現できたことが多い。継続して取り組みたい。	(保護者アンケート⑨⑩⑪)肯定的：65.4% ・困難な状況の中、中農との交流には工夫して取り組み、一定の成果が上がっている。 ・次年度以降の交流について、一緒に取り組めるよう考えていきたい。	(1)学校全体でセンター的機能の充実を図る取組がなされた。また県指定の研究において、あらたな「インクルーシブ教育実践推進」への取組をスタートすることができた。 (2)新たな形での交流及び共同学習ができた。引き続きお互いの児童生徒の学びの充実を目指した改善が必要である。 (3)感染症対策の中でも可能な取組を検討する必要がある。	(1)県指定の研究をすすめることで、校内のインクルーシブ教育実践推進の意識を高め、地域への発信や関係機関との連携をすすめる。  (2)来年度で、開校当初から継続してきた「福祉と農業」としての交流及び共同学習は終了することとなる予定である。今までの良好な関係を生かして、新たな連携ができるよう検討する。  (3)県指定の研究校との交流や、近隣小学校、中学校との交流について、できることから、具体的に進めていく。
5	学校管理 学校運営	○学校からの「情報発信力」を高める取組を行っていく。 ○不祥事防止については、不祥事ゼロをめざし取組をすすめる。 ○安心して安全な教育環境の整備に取り組む。 ○児童・生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	(1)学校からの「情報発信力」を高める。  (2)教職員一人ひとりが「当事者意識」や「自覚と誇り」を持ち、不祥事ゼロをめざす。  (3)安全な環境づくりや、信頼される関係づくり等、安心と信頼を生む取組をすすめる。  (4)教員の働き方改革を推進するため、学校閉庁日(5日間)やノー残業デーを設定し実行する。	(1)情報発信のツールを再確認し、発信方法やHPの内容について検討し、充実を図る。 (2)全職員対象の事故防止会議や研修会等を定期的に実施し、日常的に意識を高めて、「不祥事ゼロ」の取組をすすめる。 (3)職員間や保護者、関係者との連携を大切に、感染症対策や、防災訓練の充実などの取組を実践する。 (4)教員の働き方改革を推進するため、学校閉庁日やノー残業デーを設定し、実施を徹底する。	(1)保護者や地域のニーズに応じて、工夫して、必要な情報を発信することができたか。 (2)不祥事防止のため、研修会等を実施し、全職員で不祥事ゼロの取り組みをすすめることができたか。 (3)関係者が連携して、感染症対策や防災について、適切・迅速に取り組むことができたか。 (4)学校閉庁日やノー残業デーの取り組みを徹底し、教員の働き方改革をすすめることができたか。	(1)感染症対策を実施しながら、授業参観を実施できた。ホームページには「学校だより」や「移行支援だより」を発信することができた。 (2)不祥事防止に向けた研修会や職場討議を実施して、職員の当事者意識を高めた。不祥事防止会議を設置した。 (3)感染症対策については、日々状況が変化中、迅速な情報共有に努め、本校の「ガイドライン」を改善しながら、安全な環境づくりを実践した。防災に関しては、「アクションカードを使った福祉避難所開設研修」を海老名市役所と連携して実施して意識を高めた。 (4)教員の働き方改革に向けて、情報を発信する中で意識を高め、学校閉庁日を設定したり、ノー残業デーを徹底することができた。	(1)保護者への情報発信について、G-suiteを活用できたので、今後も有効発信方法として活用できるよう、研修会等で周知していく (2)次年度は、「不祥事防止会議」が不祥事ゼロプログラムの策定や検証、校内の取組について検討する場として機能し、学校全体の取組とするための検討が必要である。 (3)感染症対策については、引き続き「ガイドライン」に沿った取組を徹底していくことが必要である。 (4)引き続き教員の働き方改革に向け、職員の意識改革や業務のスリム化に向け、継続的な取組が必要である。	(保護者アンケート⑬⑭⑮)肯定的：93.2%授業の様子を知りたい。関係性向上のため先生方も悩んだとき保護者に相談してほしい。 ・PTAとしても活動を可視化したい。 ・保護者アンケートで、「わからない」が多かった取組には、引く続き工夫が必要。 ・大きな不祥事がなかったことは成果。	(1)様々な発信で成果を上げたが、引き続き情報発信を充実させる必要がある。 (2)大きな不祥事はなかったが、引き続き不祥事防止に向けて学校全体で、取り組む必要がある。 (3)感染症対策や防災については、引き続き保護者や地域のご協力を得て、充実させていくことが必要である。 (4)教員の働き方改革に向け、引き続き意識改革や業務のスリム化等、継続的な取組が必要である。	(1)「学校だより」や「移行支援だより」、ホームページでの発信に加え、G-suiteを活用するなどして、情報発信に努める。  (2)不祥事防止会議等を活用して、引き続き職員の同僚性の醸成等に努め、不祥事ゼロに向けた取組を行う。  (3)感染症対策や防災については、実践した取組を検証しながら、保護者や地域と連携を深めながら、継続して取り組んでいく。  (4)他校の取組等を参考にしながら、引き続き意識改革や業務のスリム化等、継続的に取り組む

